みやぎの環境

特集Ⅰ：県土の良好な環境の保全及び創造に向けて
特集Ⅱ：花のある町づくり

NO. 10

1995
3

四十雀とのつきあい

東北大学名誉教授　加藤　陸奥雄

山野の草を植えた我が家の庭、思い思いにはびこって、時がくるとかわいい花を咲かせてくれるのがたのしい。鳥がやってくる。鳥の糞から草や木が芽生えてくる。ヒヨドリが主人公なのだろうが、鳥の糞がもとで庭を色どる草や木が十八種類にもなった。

つがいのシジュウカラがきまって庭を訪れてくれる。太い枝垂桜の幹を昇ったりおりたりする姿が剽きんにさえも見える。殻ごと半分に裂いたピーナッツの殻を足でおさえて、中をつゝいて食べる姿がなんとも可愛らしい。

茶の間の前のテラスの柱に巣箱をくくりつけた。毎年雛育てに利用してくれる。巣造りや雛育てをながめるのもたのしい。

昨年の夏、昼さがり、二時すぎからのひととき、家内が茶の間の窓ごしに巣立ち間近かに、親鳥の巣箱通いを、時刻をおってこくめいに記録した。オス親とメス親とが交替してやってくる。ほとんど同時のこともある。二分から三分おきぐらい、間があくと雛の鳴き声がきこえてくる。餌ねだりなのだろうか。数度に一度は巣の中の雛の糞をくわえて飛びだしてゆく。せわしくもほほえましい子育てである。

ところで、ピーナッツをついばむシジュウカラをスズメが追いまわして横取りをする。どうにかならないものかと考え、ふと思いついて、平底の目のあらい笊(ざる)を紐でテラスに宙吊りにして中にピーナッツをおいてやった。笊がゆらゆらとゆれ、ぐるぐるとまわっても、シジュウカラは一向に平気であるが、スズメはそれができない。これで一安心と思っていたら、二年目か三年目に、巣立ったばかりの小雀が一羽、シジュウカラを親代りに学習したのか、笊にはいりこんで餌をとりはじめ、シジュウカラを追っぱらってしまう。こまったことだと思ううち、今年は、それが二羽にふえた。庭にやってくる十数羽のスズメのうち、この二羽のスズメだけのために笊のピーナッツが横取りされてしまうようになった。

なんとかならないものかと、シジュウカラに代わって、いま私が思案中なのである。

みやぎの環境 第十号

CONTENTS

四十雀とのつきあい　加藤陸奥雄…2
特集Ⅰ◎県土の良好な環境の保全及び創造に向けて
―環境審議会答申の概要―……3
心の安らぎは緑から　仙台YMCA講師　伊藤エステル…6
特集Ⅱ◎花のある町づくり―豊かな環境を明日へ…7
しゃん　笹谷・仙人沢　柴崎　徹…10
INFORMATION
NEWS・環境伝言板……12
紹介・環境情報センターから……13
見る・聴く・ふれる
陶芸の里みやざき……14
まちなみ
河南町広淵新田　近江　隆…15

キクザキイチゲ

表紙：仙台市三神峰公園

特集Ⅰ

環境審議会答申の概要

県土の良好な環境の保全及び創造に向けて

栗駒山

今日の環境問題は、地球環境という空間的広がりと、将来の世代にわたる影響という時間的な広がりを有する問題となっております。

環境問題は、二十一世紀に向けて真に豊かさとゆとりを実感できる社会の形成をめざす本県の重要な政策課題であるばかりでなく、人類共通の生活の舞台としての有限な環境を守り、将来の世代へと引き継いでいくという人類共通の課題でもあります。

県は、今日の複雑・多岐にわたる環境問題に対応するため、平成六年一月、環境審議会（会長・松本順一郎東北大学名誉教授）に対し「本県における環境政策はいかにあるべきか」について諮問しました。

環境審議会においては、専門的な立場から検討するため、環境政策専門委員会（座長・塚本哲人東北大学名誉教授）を置いて議論し、県民等意見のヒアリングを行うなどして報告をとりまとめ、審議会においてその報告を審議し、同年十月、知事に答申されました。

―環境審議会答申の概要―

県土の良好な環境の保全及び創造に向けて

環境審議会から答申のあった「本県における環境政策のあり方」についての主な内容は、次のとおりです。

桑沼（大和町）

基本理念―本県における環境理念

総合的な環境行政を推進し、今日の複雑・多岐にわたる環境問題を解決するためには、環境政策のめざすべき方向性を明らかにすることが必要であることから、県土の良好な環境の保全及び創造に向けて、次の四つを基本理念として掲げています。

(1) 県土の良好な環境の保全と将来世代への継承

貴重な自然環境の保全及び失われた緑の回復等を基調として県土の良好な環境の保全及び創造を通じて、人間と自然が共生できる環境を実現し、自然に恵まれた健全で美しい県土空間の形成を図り将来世代に継承していかなければならない。

(2) 持続可能な発展の下で環境にやさしい社会の構築

真の豊かさを実感できる社会を構築するためにも、あらゆる社会経済活動に環境への配慮を取り入れるなどして、環境への負荷の少ない省資源・省エネルギー型の社会を形成することにより、持続可能な発展の下で環境にやさしい社会の構築を図っていかなければならない。

(3) 地球環境保全への積極的取り組み

地球環境問題の多くが県民の日常生活や事業者の活動とも深く係わっていることを認識し、地球環境保全を図るため積極的にその役割を担うとともに、国際的な監視・観測に参加するなどして、国際社会に貢献していかなければならない。

(4) 環境文化の創造

環境との対立の時代から環境との共生の時代へと移行するパラダイム（社会規範）の変化に対応し、今後は、あらゆる活動が、自然と共生し環境を保全・創造するという新しい価値観に支えられた文化―環境文化―を創造していかなければならない。

世界谷地（栗駒町）

答申の体系

1 今日の環境問題の現状と新たな視点

(1) 本県における環境問題の現状と課題
- ① 都市・生活型公害の顕在化
- ② 有害化学物質による汚染
- ③ 身近な自然環境の減少
- ④ 廃棄物問題の顕在化
- ⑤ 地球環境問題の深刻化
- ⑥ 環境問題の複合化
- ⑦ 質の高い環境への要請

(2) 今後の環境行政を展開するための新たな視点
- ① 良好な環境の保全
- ② 環境への負荷の少ない社会への転換
- ③ 地球環境保全への貢献
- ④ 環境観の確立

2 基本理念

(1) 対象とすべき環境の範囲

(2) 基本理念 ―本県における環境理念―
- ① 県土の良好な環境の保全と将来世代への継承
- ② 持続可能な発展の下で環境にやさしい社会の構築
- ③ 地球環境保全への積極的取り組み
- ④ 環境文化の創造

(3) 環境権について

(4) 責務について
- ① 行政の責務
- ② 事業者の責務
- ③ 県民の責務

3 新たな政策手法

(1) 総合的な手法の確立
- ① 環境基本計画の策定
- ② 年次報告

(2) 個別的な手法の導入
- ① 事業実施に当たっての環境への配慮
- ② 環境保全に関する規制的手法の充実
- ③ 環境保全に関する誘導的手法の活用
- ④ 地球環境保全への貢献
- ⑤ 環境影響評価制度の推進
- ⑥ 快適な環境の創造
- ⑦ 緑の保全と創出
- ⑧ 廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進
- ⑨ 環境教育の推進及び情報の提供
- ⑩ 民間活動の支援
- ⑪ 監視体制の整備及び調査・研究の推進

4 環境行政のための新たな制度

(1) 新たな条例の制定　(2) 現行条例の見直し　(3) 推進体制の確立　(4) 県民、事業者参加の環境行政

新たな政策手法

基本理念を実現するためには、環境政策の指針となる総合的な手法を確立するとともに、実効性を高めるための個別的な手法の導入を図ることが必要であるため、次の手法等を位置づけています。

(1) 総合的な手法の確立

基本理念の着実な実現に向けて、広範な環境施策を総合的・計画的に推進するため、環境政策の総合的指針となる環境基本計画を策定することが必要である。また、現在の環境白書の刊行を年次報告として位置づけるべきである。

(2) 個別的な手法の導入

事業実施に当たっての環境への配慮、環境保全に関する規制的手法の充実、環境保全に関する誘導的手法の活用、地球環境保全への貢献、環境影響評価制度の推進、緑の保全と創造、快適な環境の創造、廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進、環境教育の推進及び情報の提供など。

環境行政のための新たな制度

今後、環境政策を推進するための新たな制度として、次のような対応が必要とされています。

現在及び将来にわたって県土の良好な環境の保全及び創造を図るためには、環境そのものを総合的に捉え、各般の施策を総合的かつ計画的に進めていく法的枠組みとして、新たな条例（環境基本条例）を制定する必要がある。さらには、環境基本条例の制定に伴う現行条例の改正、環境の保全・創造のための県民と一体となった推進体制の整備、県民・事業者参加の環境行政を進める必要がある。

ミズバショウ（泉ヶ岳・芳の平）

「心のやすらぎは緑から」

仙台YMCA講師　伊藤エステル

私は子供の頃から日本にあこがれておりました。写真で見る美しい山々、川、湖、海岸、それに折々に変化する季節。それは心を和ませてくれます。

私の生まれ育った国はスイスです。スイスも日本のように四季があり、自然がとても美しい国です。でも日本とスイスを比較すると何か少し違う点があることにこの頃気づいております。日本には緑そのものはたくさん周りにあるのに、もしかしてそこに住んでいる人達が自然そのものを愛していないのでは、別の言い方をすれば自然の恵みに対して無関心ではないかと感じるのです。これほど季節感が有り、周りに緑の多い宮城県。こんな土地は地球上でもそんなに多くはありません。すばらしい環境はお金ではどうすることもできない大切なものなのです。

日本人は経済面では、各個人、企業が色々な工夫をするのになぜ自然に対してこんなにも他人事でいられるのでしょうか。今残っている森林もやがて伐採され、空き缶やプラスチック製のゴミがいたる所に投げ捨てられるようになるのではないかと心配です。

ゆとりある二十一世紀を迎えるためにも行政、教育、企業、個人の意識の改革が是非必要な時ではないでしょうか。美しい町並で買い物散歩をすることも人々の心を満たしますが、それ以上に美しい自然を散策し、そこに住みたいと思う人達が増える時代がもうそこまで来ております。時代は心の安らぎを美しい自然環境の中に求め始めているのではないでしょうか。今はあまり必要を感じないと思われる緑も、失ってからではもう取り返しがつきません。一人一人の力は小さいものですが、真にゆとりある社会を築くためにも今から緑を大切にいたしましょう。

（第九号から本誌の編集委員）

特集Ⅱ

花のある町づくり

── 豊かな環境を明日へ ──

最近、地球規模の環境問題に対し関心が高まっています。それに伴って、私達は身の回りの「自然の大切さ」を実感し、人類の生存にとって自然と共存していくことの重要性を認識し始めました。

都市化が進み、私達の生活が能率と利便性を追求するようになると、とかく自然とのかかわりが希薄になり、「自然の大切さ」を忘れがちになります。しかし、太古の昔からほんの三・四十年前まで日本人は自然と共存して生活してきたのです。その頃は、近くの小川にフナやメダカが群れをなして泳いでおり、庭先にはチョウやトンボがたくさん飛んできたものです。

しかし、近頃では目にとまる動物の種類もめっきり少なくなり、真夏でもセミの声が余り聞かれなくなってしまいました。その一方ではテレビ・冷蔵庫・自動車などが急速に普及しています。これらの消費財の普及と小動物達の減少とは直接関係がないように見えますが、生活が便利になるにつれて身近な自然が失われていくのは事実なのです。

今になって多くの人々がこのことに気づいて、自然との共存を模索しはじめました。しかし、失われた自然はそう簡単に復元できません。

そこでまずは、身近なところに清らかな水と花や緑あふれる「安らぎの空間」を取り戻そうとする運動が、住民参加により各地で展開されています。今回は県内の市町村におけるこのような環境づくりへの取り組みの中から「花いっぱい運動」を中心とした活動のいくつかを紹介したいと思います。

こどもたちへのふるさとづくり

最初に中新田町の「花いっぱい運動」を紹介しましょう。中新田町はバッハホールによって全国に知られた町です。ここでは平成二年頃からふるさと創生運動の一環として、こどもたちがふるさとの町を愛する人に成長して欲しいという願いのもとに、町民一体となって水清く緑豊かな花あふれる町づくり事業を展開しています。

活動は春と秋の二回、町内の通学路の舗道に季節の花を植えることから始まります。秋の植栽は十一月の半ばに、町内のおよそ二百五十人ほどの人たちが参加して行われました。参加者の多くは老人クラブの人たちでしたが、近くの商店の人、ボランティアの若い人たちも加わって、植栽作業が行われました。

この日のために用意された土や花苗がトラッ

通学路沿いの花壇（中新田町）

秋の植栽風景（中新田町）

クで運び込まれると、一斉に作業が開始されます。まず、花壇の土が入れ替えられ、パンジーの苗が手際よく植えられていきます。作業にあたっては警察官が交通整理をしてくれ、作業の安全にも十分配慮されています。

植栽に備えて、土つくり・花つくりの講習会が年二、三回、専門の講師を招いて実施されています。花苗は加美農業高校から提供してもらい、苗つくり農家でボランティアで育ててもらっています。植栽後の草とりや消毒も老人クラブのボランティアにより常時行われています。これらは行政主導型ではなくあくまでも地域住民の自主的な活動によって行われています。

花づくりを通して町内清掃

南郷町は「花いっぱい運動」の先進地として知られている町です。その活動の歴史は古く、昭和四十二年頃の新県民生活運動に端を発しており、今年で二十六年目を迎えようとしています。その後、「すばらしい南郷を創る協議会」が発足し、老人クラブの協力を得て「花いっぱい運動」へと発展しました。

南郷町は地形的に水田を中心にした平坦地であり、森や林に恵まれないため、これを補う目的で緑の環境をつくろうと「花いっぱい運動」が始められました。現在では老人クラブの意識も高く、各クラブの花木部長を中心に自発的に消毒、手入れなどの作業が行われています。また作業の折りには各自が袋を持って、周辺の空きびん空き缶の回収などの清掃作業も行っています。平成五年八月には、協議会は日本道路協会より表彰されました。

昨年は六月から九月にかけて町内を十三地区にわけ、国・県道や町道沿いに延長三・五キロメートルにわたってサルビア三千本、マリーゴールド二千五百本、カンナ五百本の植え付けが行われました。また、南郷町スポーツ少年団や南郷高等学校の生徒による地域の清掃活動も活発に行われ、町の美化に協力しています。

木間塚地区（南郷町）

湖畔の町の環境整備

川崎町では昭和四十五年に釜房ダムが完成し、観光客が増加したのを機会に周辺の環境整

役場前（南郷町）

備を図ろうと、町内や道路の清掃活動を行うようになりました。昨年は七月二十一日から三十日までを森と湖に親しむ旬間として、二百五十人の人達による清掃奉仕が行われました。

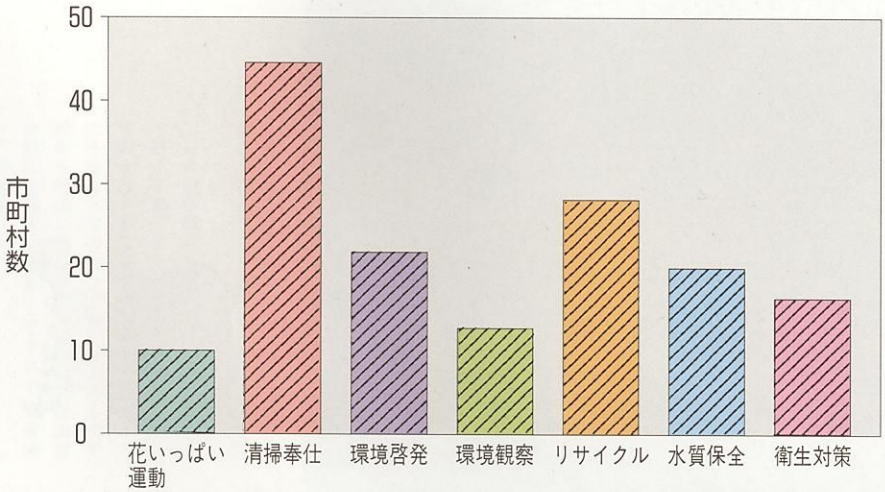
さらに平成元年にはみちのく杜の湖畔公園が開園されたのに伴い、町を花で飾る事業を計画しました。こうして「花いっぱい運動」が始まりました。現在では春（四月）と夏（七月）の年二回花苗を配布し、町内の住民の協力を得て植栽しています。苗は町のフラワーセンターで作られ、事業所や学校、各家庭に配布されています。

昨年の春にはパンジー、マリーゴールドの苗三万三千本が町内に配布されました。これは一戸あたり五本になります。同時にプランター二百個も配布されました。路地植栽用の苗は一万本が用意され、諸団体や住民によって町内の路地に植栽されました。維持管理は老人クラブ等により定期的に行われています。

春の植栽風景（川崎町）

今回とりあげた例の他にも県内の多くの市町村で様々な形の環境づくりが試みられています。町にはそれぞれの自然風土や歴史、文化によってかもしだされる特有な匂いのようなものがあります。その町の個性といってもよいかもしれません。住む人にとって最も快適な環境とは、その町の個性を生かした町づくりから生まれるのではないでしょうか。これからもアイディアに富んだ豊かな地域環境づくりが各地で展開されていくことが期待されています。

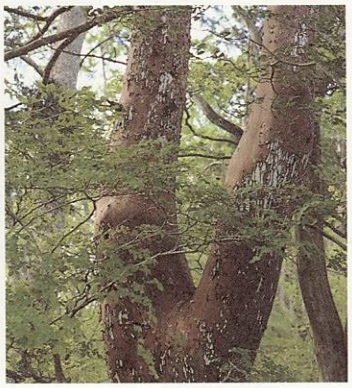
スポーツ少年団の奉仕活動（川崎町）



■県内市町村における環境づくりへの取り組み（平成６年度）

笹谷・仙人沢

仙人沢の柱状岩壁


クロベの巨木

仙人の大滝

(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究室長
柴崎 徹（文と写真）

尾根上に咲くムラサキヤシオ

仙人沢の奥に聳える神室岳

いよいよ笹谷峠越えという位置に、かの仙人沢がある。碁石川の上流・北川の源流部、神室岳の領域である。

神室岳は聖なる山、その南面に発するこの沢も聖なる沢である。入口には十一面観音、奥にかかる仙人の大滝は、それ自体が守護神として崇められている。その神々しい姿は、笹谷峠の有耶無耶の関趾からも拝することができる。

そこには「仙人大権現」の巨大な石碑が建てられている。

仙人沢は自然が豊かだ。山は高く谷は深く、雪が遅くまで残り、清冽な沢流が一瞬のゆるぎもなく、渓谷を刻みつづけている。湧き立つ雲は、その樹々や岩壁にまとわりつき、谷間を悠々と漂った挙句、天空へと吸い込まれていく。

流域はブナの原生林、嶮しい尾根状の立地に耐えるクロベの林も見事だ。

ここはまぎれもない仙境・自然がつくり出した仙境である。幸いなことに人々もそのことに気付いてきた。

まもなく春、ブナの新緑が芽吹く頃の仙人沢は、まさに佳境である。

●交通案内●

JR仙台駅から宮城交通バス川崎行きで終点下車。さらに笹谷峠までタクシーで四十分。車では仙台市街から国道二八六号線を山形方面へ。笹谷トンネルの手前から峠道に入り、笹谷峠へ。又は山形自動車道笹谷インターで下りて笹谷峠へ。駐車場あり。

NEWS

●「エコみやぎ'94大崎」開催される（古川市）

「私たち一人ひとりが地球です」をテーマに地球環境保全のイベントが大崎圏域で、平成六年九月一〇～一七日に開催されました。

オゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨等の地球環境問題は、身近な問題としてとらえることが難しいので、このイベントでは、実験や体験を通して、地球環境問題に気付くこと・理解すること・解決のための知識や技術を持ち実績につなげることをねらいとしました。

内容は、①ブナの緑と水のツアー②地球はどうなってるの実験③空き缶アートコンクール④地球が困っているなんて知らなかった展⑤メインイベント（基調講演・知事と語ろう地球の未来宮城の未来）⑥もったいないフリーマーケット、と大きく分けて六つのイベントで構成されています。

地球はどうなってるの実験では、大崎圏域の小中学生一六〇人が、夏休みの間、酸性雨の実験に取り組みました。アサガオやPH指示薬を使用して雨の酸性度を測定し、自分たちの住んでいる地域にも酸性雨が降っていることに気付きました。さらに、その実験をもとに、知事と環境問題について話し合い、地球環境問題も、日常生活での一つひとつに気を配ることで解決につながることを、確認し合いました。

ブナのツアーに参加した親子、空き缶アート作品づくりにがんばった高校生、展示会やメインイベント・フリーマーケットに来場した人々、延べ六、四四〇人の参加がありました。

地球環境問題への認識を高めたこのイベントをきっかけとして、大崎圏域一四市町あげて、子どもから大人まで、地球環境保全の実践活動への発展が期待されます。

（担当・宮城県環境政策課）

●「平成六年版 宮城県環境白書」が発行されました

宮城県環境白書の平成六年版が、昨年十二月に発行されました。

この白書は平成五年度の宮城県の環境の現状と対策をまとめたもので、サイズがA5判からA4判になり、読みやすくなりました。

環境の現状は、大気汚染では車の増加とともに二酸化窒素が増加、水質汚濁は河川が改善の方向、騒音振動は環境基準の達成率は横ばい、悪臭は畜産農業や家庭生活に起因する苦情が増加しました。また、一般廃棄物の発生量はごみが二二四四t／日で前年比〇・一%の微増、公害苦情は一五八六件で建設廃材等の廃棄物処理関係、空き地管理不良による害虫発生の苦情が増加しました。

対策としては、大気汚染常時監視テレメータシステムを更新し、迅速な観測を行ったり、下水処理施設の整備による生活排水対策等を実施しました。

また、環境教育の推進や地球環境保全の普及啓発への取り組み、さらに、新しい環境政策のあり方に関する検討と、環境施策の基本となる条例制定に向けての検討等についても記述しています。

環境白書の詳細や入手についてのお問い合わせは、宮城県環境政策課（☎〇二二-二一一-二六六三）までお願いします。

環境伝言板

深山山麓（しんざん）少年の森がオープンします

山元町では、町西部を縦貫しているアップルライン沿いのほぼ中央部に位置する丘陵地に「深山山麓少年の森」を整備中ですが、いよいよオープン間近となりました。

この地域一帯は、県緑地環境保全地域に指定され、広葉樹や赤松、ひのきなどの混在林でたいへん自然環境に恵まれています。また、北側に隣接して「深山神社」がありますが、この場所は戦国時代の山寺盛純の居館跡と伝えられています。

少年の森は、このように自然と文化遺産にも恵まれた地域に、マウンテンバイクコース・フィールドアスレチックや遊戯施設・水生植物の湿地帯・深山自然観察路を通り山頂に至る遊歩道・交流センター等の管理施設の五つのゾーンで構成されています。

今後この施設は、心身ともに逞しい青少年の育成や、親子での森林浴、植物や野鳥の観察などみんなで楽しめる施設としての活用が期待されます。

詳しい内容については、山元町教育委員会社会教育課（☎〇二二三-三七-五一一六）までお問い合わせください。

紹介

柴田町さくらの会

「柴田町さくらの会」は町の花「さくら」を次の世代に伝え、柴田町を全国的なさくらの名所とするため、さくらの木の植樹と育成管理を会の活動方針として、昭和五十三年に設立された民間団体です。千本の植樹を目標に町の理解と協力の下、毎年約五十本ずつ船岡城址公園や太陽の村等の町内の公共ゾーンに植樹をしています。

会の加藤さんによれば、毎年、町の広報誌等で町内外に広く特別会員の募集を行い、植樹する苗木の実費を会費として頂き、特別会員の名前入りのプレートを付けて苗木を植樹しているそうです。誕生、入学、転勤などの記念として申し込む方が多いとのお話でした。また会では植樹した木のテングス病などの駆除や木が枯れた場合の補植なども行っているほか、一人暮らしのお年寄りへのお弁当の宅配といったボランティア活動も行っています。更にさくらまつり・菊人形まつりの際の街頭の飾りつけの協力なども行っているそうです。加藤さんはさくらを育てることで、生命の尊さや豊かな自然を多くの人に理解してもらえればと話していました。

十四名で始まったこの会も現在正会員が百名を越える程になり、当初の目標であった千本の植樹もこの春実現します。柴田町の町制四十年を迎える平成八年にはさくらの植樹千本を記念する式典を予定しているそうです。会では設立当初の目的が達成されるのを機に活動方針の転換を図っていきたいとのお話でした。

春の訪れとともにさくらの淡紅色の花がその穏やかな美しさを見せるいい季節です。皆さんも柴田町までさくらを見に出かけてみませんか。

（T・I）

連絡・お問い合わせ先
〒九八九-一一六
柴田郡柴田町船岡二-三-四五
柴田町役場都市計画課
加藤　嘉昭
☎〇二二四-五五-二一一一

環境情報センターから

コンピュータシステムがはいりました

環境情報センターにこのほど、環境保全啓発用のコンピュータシステムが入りました。「エコワールド」というソフトの内容は、第一編　オゾン層の破壊・温暖化、第二編　酸性雨・熱帯林の減少、第三編　砂漠化・海洋汚染と大きく六つのテーマに分類されており、概要や被害、原因、対策について、豊富な映像と音声で、地球環境問題をわかりやすく説明しております。又、テーマごとにシミュレーション「やってみよう」とクイズコーナーを設けて、環境に関する問題を考え、楽しみながら理解できるようになっております。

環境情報センターでは、環境関連の参考図書等を収集し、県民の方々への閲覧・貸出を行っています。

その中から、エコロジカルな暮らし方のアイディアを集めた楽しい本を、紹介します。

チョットのヒントでムダのない暮らし方の参考にしてはいかがでしょう。

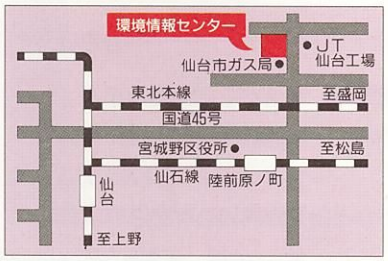
書名	著者	発行所
親と子の草あそび花あそび	グループ・コロンブス	文化出版局
シリーズ親と子でつくる		
紙でつくる楽器	繁下和雄	創和出版
小石に描く	清つねお	創和出版
段ボール遊具をつくろう	檜山永次	創和出版
しんぶんでつくろう	よしだきみまろ	福音館書店
暮らしの手づくりアイデア集	家の光協会編	㈳家の光協会
誰でもらくらくアイディア・リフォーム	古川敏子	㈱創元社
私たちにできるゴミを減らす暮らしの工夫101	石毛健嗣	大泉書店
環境にやさしい暮らしのアイデア834＋1	京都生活協同組合編	かもがわ出版
子どもにできる地球にやさしい24時間	林佳恵ほか	学陽書房
子どものためのエコロジー・ワークブック	リンダ・シュワルツ	㈱ブロンズ新社
手づくり石けん	赤松純子	民衆社

〒983
仙台市宮城野区幸町4-7-2
宮城県保健環境センター1F
宮城県環境情報センター
TEL022(257)7181　内線29

利用時間／月～金曜日、午前9時から午後4時まで

休　館　日／土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

交　　通／仙台市営バス　保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ



陶芸の里みやざき

ふれて下さい土の想い

感じて下さい炎のつぶやき

奥羽山脈のふところに抱かれ、四季折々の美しい自然、澄んだ空気、清らかな水に育まれたまち、宮崎町。

宮崎町の切込（きりごめ）地区に江戸時代の後期を最盛期として生産されていた陶磁器「切込焼」。白い地に藍色で模様が描かれた染付の磁器が大半を占め、らっきょう形の徳利が特徴。ほかに瑠璃、鉄砂、二彩、三彩などがあり東北の陶磁器の華ともたたえられ、素朴で暖かいその姿は多くの人に愛されてきました。また、その発祥など解明されていないことが多く「幻の磁器」とも言われています。

この切込焼の保存、継承、そして地域振興の拠点としてかつての窯跡の隣接地に「陶芸の里」があります。

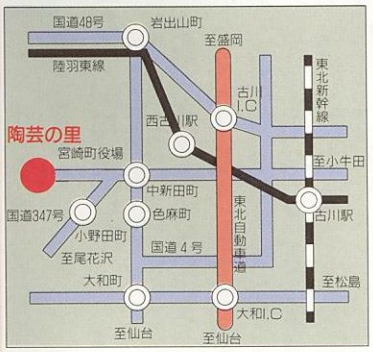
約五ヘクタールの敷地には切込焼の伝世品などの展示を中心とし、その美と魅力にせまる切込焼記念館、自分だけのオリジナルを作る陶芸体験のできる郷土文化保存伝習館、地形をそのまま利用した草舞台ひろばなどがあります。

建物は周辺の自然と調和するようすべて地元の木を使った木造としており、木のもつ香り、温かみが伝わり全体の景観が四季の姿を写しだし、「やすらぎの空間」を演出してくれます。

ガイド

■交通案内
ＪＲ仙台駅より車で80分
ＪＲ古川駅より車で40分
宮城交通バス50分
東北自動車道大和I・Cより車で40分
東北自動車道古川I・Cより車で40分

■お問い合わせ
陶芸の里・ふるさと陶芸館
TEL0229(69)5751



利用のご案内

■開館時間　10時から16時30分まで

■休館日　毎週月曜及び祝祭日の翌日
（年末年始など特別休館がありますので、あらかじめお問い合わせください）

■ふるさと陶芸館内切込焼記念館観覧料
大人400円　子供200円（団体割引があります）

✂切り取り線

昔日の面影深く――河南町広淵新田

地霊の宿るミクロコスモス

東北大学工学部助教授　近江　隆

東浜街道を北上すると不思議な集落景観に出くわす。新田という名前が示すように、この集落は広淵沼の開拓で作られた農村集落である。しかし、街並は一見、武家屋敷町を連想させるたたずまいを見せる。笠門（棟門）と呼ばれる門構えが時を越えて往時の格式や風情を感じさせる。黒の腰壁つき土塀やむくりをもつ破風、門柱のかわりに聳え立つ二本の欅の巨木は、タイムスリップした豊饒な世界へ誘う。

ここは寛永五年白石城主片倉小十郎の知行地として開拓された。幾何学的な碁盤目状に配置された敷地は笠門からの長いアプローチを経て、庭木に囲まれた入母屋づくりの建物へと続く。こんもりと樹冠に覆われた集落の周囲は広々とした水田に連なり、昔ながらの用水や屋敷囲いによって農村的風景をつくりだす。内部の武家屋敷的、都市的風景と、外周の農村的風景の対比と融合の齎す世界は、開拓に新天地を求めた人々の描くミクロコスモスである。

格式や風情を感じさせる黒の腰壁のついた土塀

交通案内

- ＪＲ石巻駅から宮城交通バス鹿島台行き又は涌谷行きで約30分広淵下車、広淵新田まで1.5㎞、徒歩20分
- ＪＲ矢本駅から5㎞、車で7分

街並の随所に見られる笠門

武家屋敷を連想させる街並

庭内に聳え立つ欅の巨木

県鳥：ガン

この冊子は印刷用再生紙を使用しています。

「みやぎの環境」第10号平成７年３月16日発行（年２回３月・９月発行）
●発 行 所　〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目７番２号
宮城県環境情報センター　ＴＥＬ　022(257)7181
●印　　刷　株式会社ソノベ
●編集委員　吉田祐二（石巻市）、荒光雄（山元町）、伊藤エステル（仙台ＹＭＣＡ）、田畑規理子（環境政策課）、三沢松子（環境対策課）、伊藤利彦（環境保全課）、鈴木正章（廃棄物対策課）、山本仁、宗久和義、小林孜（保健環境センター）